

	<p>2026 年 2 月 1 日 第 172 号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295</p>
---	---

バッタ広場のトゲトゲの木

バッタ広場は、草原に住む生き物たちの場所ですが、放っておくと森になってしまうので、木も低い高さに切っています。このなかで、サイカチ（マメ科）（と思う）は特別扱いで切らずにいます。最初に気が付いたのは2010年。葉が偶数羽状複葉で、幹にも枝分かれしたトゲがある木です。城址のアカミチの下にサイカチの大木があり、長さ20cm程の固い豆のサヤが落ちていました。このサイカチの大木は数年前、傾いてきて伐採されましたが、切り株はまだ残っています。固くて大きなサヤの中の豆がどうやってバッタ広場に来て発芽したのか想像できませんが、私が知らないだけで、子孫を残す知恵があるのですね。



小葉が偶数。先端の葉がないのが特徴

鈴木幸一さんに「高島平にサイカチが茂っていて地名になっていた」と教えてもらいました。教えられた通り「文化財シリーズ第82集いたばしの地名」にはサイカチドという地名がありまし

た。高島平1丁目、今のスマレ保育園あたりです。江戸時代、農民はサイカチの実を江戸城に納めていた記録があり、サイカチの木が茂っていたと推察され、サイカチドという地名にも残っています、とありました。サイカチの実は私の実家に転がっていて、父が石鯰の代りになると言っていました。戦後のモノのない時期、どこかで入手したような話でした。

以前、バッタ広場以外にもサイカチがありました、大きくなる前に切られたようです。探せばどこかにあるでしょう。バッタ広場のサイカチは大きくなりました。そろそろ花を咲かせて種が出来るのでは??楽しみに待ちましょう。

春の七草を探してみた

春の七草を探してみよう。

春の七草は言えますね。セリ、ナズナ、オギョウ（ゴギョウ）、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロです。1月7日に七草粥を食べることも知っています（本当は旧暦の1月7日）。

セリは田んぼなどの湿地に生える植物で、赤塚トンボ池に生えています。スズナ（蕪）、スズシロ（大根）は八百屋さんにあります。

「他の七草は都会で見つけられるかな?探してみて」と声かけして私も探しましたが、花のないロゼット（根生葉）で見分けるのはむずかしい。オギョウ（ゴギョウ）の今の名前は、ハコグサなので、それらしい草を探すと、あそこにも、ここにも、あるのはウラジロチチコグサ（外来種）ばかり。ハコベ、ホトケノザ（図鑑に出ているホトケノザ・・・七草のホトケノザとは別物）がありました。

ナズナ（ぺんぺん草）も種や花がないとわからない。11日に確認したのは、トンボ池内のセリとハコベだけ。



左:佐藤さんが撮ったウラジロチチコグサ
葉の裏が真っ白(外来種)

右:奥平さんが撮ったハコベ



観察会

前野・中台・西台の崖線を歩く

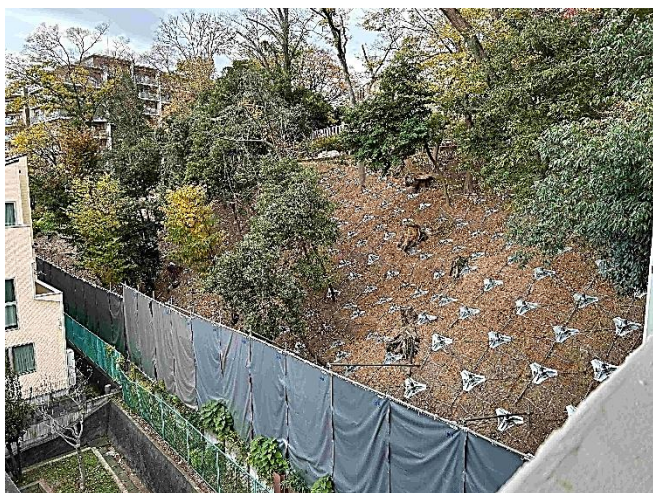
この夏は暑かったですね！注目されたのは木陰の涼しさです。気候変動の緩和対策として、樹木や樹林地の冷却効果や、土砂災害防止効果（樹木の土壌保持能力）が言われています。そこで崖線をみんなで観察し、現実の樹林地はどうなっているか考えたいと 11 月 29 日（土）崖線観察会を実施しました。参加者は 7 人。

観察したところ

- ① 日暮台公園（杭による斜面補強工事中）
- ② 出井川支流対岸の保存樹林
- ③ 中台 2 丁目公園
- ④ 里山公園と近くの屋敷林
- ⑤ 中台ならのき公園
- ⑥ サンシティ（中台の住宅団地）
- ⑦ 西台公園 斜面補強工事（完了）

花が咲いていなくても、見慣れない土地をテーマをもって見て歩くのはおもしろいものです。だいたい樹林や樹木を観察する機会はありません。

観察会后、清水さんが撮った日暮台公園の斜面補強工事の写真に、みんな衝撃を受けました。



木を伐採し、杭を打ち込んで地盤を補強する斜面補強工事中の日暮台公園の樹林地。工事前に会員 4 人で、下から藪をかき分けて登った斜面。南側は部分的に裸地になっていたけど、他はササや木がしっかり生えていたので、木が切られ、杭が打たれてとても残念。

参加者の感想

- ・（日暮台公園は）酷いなあ、としか言葉が出てこない。
- ・こんなに多くのボルトとワイヤーでしか土砂崩れ防止ができないのでしょうか。
- ・中台里山公園の伐採樹木の多さに驚いた。昔はこんもりとした保存樹林地でした。
- ・伐採後 10 年ほどたつと、切り株も腐るので、土壌が崩れる可能性がある。それまでに新しい樹木を育成しなければならないのでは。

- ・ならのき公園もこんもりしたドングリがたくさんなる公園でした。切り株ばかりで驚きました。
- ・ならのき公園には、多くの木が伐採されたが、ドングリから芽生えた実生がたくさん生えていました。雑木林が再生するようそっとしておいてほしい。
- ・西台公園は補強工事一年後。金属杭の上を被覆材で覆われており、植栽されたハギが生えていた。この環境でセミも雑草も実生もないのが気持ち悪い。
- ・西台公園は急斜面なので公園管理者は不安になるだろうと思う。
- ・サンシティの森は、住民の手で植栽して40年以上経過しています。高木を伐採し、若い木を植えています。林内は区の公園のようにはげていません。
- ・サンシティはボランティアで管理計画を作って伐採したり、植樹したりしているのは素晴らしい、保存樹林も大木を伐採して若い木を植え、更新していました。

木が元気に育っているか、木の根元はどうなっているかなんて普通なら関心外です。日暮台公園のピカピカの金属杭は衝撃的でしたが、中台2丁目公園の金属杭には、ほとんど注目されませんでした。木が生えていればそれだけで安心します。

佐藤さんは、ご自宅に近い小豆沢公園の自然を大切に思っています。小豆沢公園の北区側はボランティアの方が落ち葉かき、草刈りをして下さり手入れが行き届いていますが、年々ニリンソウが減少している気がする（シャガが増えている）し、木が減っています。木は倒木処理にとどめてほしい、小豆沢公園野球場の下の崖を再生できないか？ 子供の遊び場も必要だがすべての斜面ではないが立ち入りを制限して保全してほしい。小豆沢公園を、第二の日暮台公園にしないほしい、という思いを寄せられました。私もまったく同感です。

木の根元・落葉と落葉の下に注目して

私は、以前は樹林地や林床（木の根元）には目が行きませんでした。私にとって、木や木々は「まともって見える」「背景」でした。

樹林地の林床や地面に注意を向けるようになったのは、釣巻さんの指導により、住民参加で実施した「ベイトトラップによる昆虫調査」です。下草のある地面に穴を掘って、紙コップにエサのカルピスを入れたトラップを埋め、落とし穴に落ちた虫を回収しました。

この昆虫調査でわかったことは、多くの公園や校庭の草がない固い裸の地面では、トラップに入ったのは、アリとダンゴムシくらいだったこと、また、一見立派な樹林地も、下草がなく、昆虫がいらない、という地面が多かったのです。一方で都立赤塚公園の斜面樹林地などでは、落ち葉や下草の下に、ミミズなどを食べる肉食の昆虫や、腐った落葉や死骸や糞を食べる分解者たち（リサイクル屋さん）がいて、豊かな自然がありました。

また、下草が生え落ち葉がたまった地面は、雨が浸透し地下水を涵養する大切な場所だということにも気づきます。雨のしみ込まない固い地面が増えた今、大雨が降ったらどうなる！という防災面の問題も出ています。

地面に目を向け、土壌生物や落ち葉が分解されていく様子にも目を向けていきたいと思っています（坂本郁子）。

ガガイモの種が舞う



12月に入って、ガガイモの実が割れて種が出てきました。さやの中には真っ白な長い毛のついた種が整然とびっしり並んでいます。見ごたえのある種です。サヤから飛び立った種は1個でもボリュウムがあります（画面の中央左端に見える）。写真右は種が入っていたサヤです。

ガガイモは、つる植物でクズなどと一緒に這い登るので、下草やクズと一緒に刈られてしまうことも多く、ガガイモの種を見るのは久しぶりです。

ガガイモは、バッタ広場ができて数年後からここに居ついた植物です。ガガイモの葉を食べる蛾がいました（私は一度見ただけです）。また（ヒメ）ジュウジナガカメムシという、オレンジ色と黒の鮮やかなカメムシが集団でガガイモの葉に集まっていました。カメムシがガガイモの存在を察知してどうやって来たのか、不思議です。カメムシは何年か続けて見ましたが、そのうち見なくなり、ガガイモもほとんど見なくなりました。夏になったら、ガガイモの地味な花とガガイモの葉を食べる派手なカメムシを探しましょう。

今年はトンボ池にカエルが来るかしら

普通なら2月中頃から、カエルたちは冬眠から目覚め、水辺にきて婚活します。赤塚トンボ池では、以前は多いときで20匹位のカエルがやって来て、「クッ クッ」と小さく鳴きながら池の中をバシャバシャ音を立てて泳ぎ回って派手なカエル合戦を繰り広げ、梅まつりの来場者を楽しませてくれました。それも昔の話になりました。

カエルの数は年々減り、去年は1匹も来ませんでした。

前の年（2024年）は、卵は1塊のみ、ネットで覆って万全に保護したつもりでしたが、ネットの隙間からヘビ（ヒバカリ）が入ったとしか考えられず、オタマジャクシはいなくなりました。その前の年（2023年）卵は3塊。池の一部をネットで覆って保護。トラブル続きでしたが、

5 月 1 4 日豆ガエルが大発生した。豆ガエルの出現はネットで保護するようになって初めてです。でも、その後付近で豆ガエルに出会わなかったのが、何匹が生き残れたかどうか。小さな豆ガエルの生存率は低いようです。

道端などで豆ガエルが跳ねているのを見ます。いるところにはいるようです。トンボ池の周囲は人も入らない自然の裏山で、カエルの生息環境として十分だと思うのですが、カエルがいません。トンボ池でオタマジャクシの天敵は、飛来するカルガモと蛇（ヒバカリ）です。それから人間、ザリガニは食い尽くすほどではありません。

以前、トンボ池の周辺は畑だったし、古い農家の庭や畑、城址やバッタ広場の草むらにカエルがいたように思います。そのころ、誰もカエルの心配なんてしませんでした。

もし、今年カエルがトンボ池に来て卵を産んだら、

カルガモやヘビに食べられないよう、カゴをつくって保護することになります。布施さんはカエルが出入りしやすいよう、フェンスの下に通り道を作りました。小さなカエルが茂みに逃げ込むにはフェンス下の通り道があるといいかもしれません。

バッタ広場の手入れ

バッタ広場をつくって 26 年。状況は少しずつ変化しています。ショウリョウバッタが好むチカラシバが減りました。

冬を越す生き物たちのために、枯れた草も残していましたが、外のチカラシバの草原をリセットできないか、試しに地際で刈ることになりました。とりあえず、南半分（向かって左側）だけ。

（写真左は草刈り中、右は枯れ草のまま）。

草の根元を刈ったら小さい虫が動いて冬眠中を起こしてしまった、そういうこともあります。通りがかりの女性から、「ぼうぼうの雑草が汚かった。きれいにしてもらって、ありがとう」と感謝されたそうです。刈れた草むらは生き物の隠れ場所なのですが・・・嫌われるのです。だからトンボ池でも枯れ草を刈りました。

クズの茂みは、生き物たちの最後の隠れ場所、春までそのままにしておきます。



活動・観察記録(12月～1月)

バッタ広場

冬で生き物が少ないとは言え、カマキリの卵1個だけ。カマキリは減っているし、カマキリの卵を探して持って帰る人がいる。越冬中のツチイナゴも見なかった。

ジョロウグモが12月20日まで網にいた。温暖化の影響か？エサがないのか？

トンボ池

池の中の水草刈、池周りの枯れ草刈

ザリガニ捕獲 146匹（7回捕獲）1月に入ってからはずか。トラップにはスジエビとクチボソも入っていた。



枯れた水草を刈っていたらウキヤガラの枯れた葉に黒いぶつぶつが・・・
アブラムシでした。アブラムシもそれぞれが決まった植物の汁を吸います（やはり食草というのかしら）。オギにもアブラムシがいました。

ジョロウグモ（12月11日確認後いなくなった）、ハラビロカマキリ死骸、アブラムシ
オオカマキリ卵2

カワセミ、コサギ（左）、ジョウビタキ（メス）（右）



ため池では、水がすっかり透明になって底が見え、大きな鯉もよく見えます。カワウが潜っていたり、マガモが来たこともありました。12月からカモの群れに混じって渡り鳥のオオバンが常駐しています。黒っぽい鳥で、鼻のあたりが白いのが特徴。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

●赤塚ビオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時（第2日曜日と第4土曜日）

2月15日（日）10時～11時半

2月28日（土）10時～11時半

3月8日（日）10時～11時半

3月28日（土）10時～11時半

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、

●日暮台公園と樹林地の観察 工事中のため休みます

● 環境なんでも見本市

いたばし水と緑の会も出展します。

2月7日（土）12時～16時（開会式11時30分）

2月8日（日）10時～16時

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。